

神津島村歴史年表  
西暦 年号  
先土器時代から

八三八

承和五年

先土器時代 (二万年前から) 縄文時代前期 (一万年から五千年前) 縄文時代中期、後期 (五千年前より二千年前) に、神津島産の黒曜石が、東京都、千葉県、神奈川県、静岡県に運ばれているので、黒曜石採取の先人が存在したと言う。

神津島噴火、承和五年七月五日出火、上津島左右の海中炎野火の如し、北の角から北西の角まで長さ十二許り、広さ五許り、又南東の角から南西の角まで長さ八許り、広さ五許り成る砂浜、此の二院元大海とあり、大海が火碎流で砂浜に化したと言う、七月二十九日の条に河内、三河、遠江、駿河、伊豆、甲斐、武蔵、上総、美濃、飛騨、信濃、越前、加賀、越中、播磨、紀伊等十六ヶ国に灰のような物降り止まず、古老は米の花で豊穰の兆しと云う。

当時半坂、焼山、上の山等に居住していたと思われる人々は此の天上山の噴火で、伊豆南伊豆南伊豆町に避

難したと南伊豆町字手石の月間神社由緒記に記載されている

八五〇

嘉祥三年

一〇月阿波神、物忌奈神に従五位上授く、又阿波神と物忌奈神を官社に列す。

九四〇

天慶三年

噴火百年後、下総の藤原の一族が、平将門に追われ神津島に上陸神津姓を名乗り、また百年後京都へ移る。

一三三八

延元三年

鎌倉管領の執事上杉憲顕始めて代官制を敷き、島治の機関を創設。

一四二九  
一四九五

延徳三年  
明応四年

北条早雲伊豆の国を占領す。  
北条早雲小田原城を占領、関東伊豆を支配本島も、その管下に属す。

五五八

永祿年

松江家の祖石田家ありて神に仕えかつ島政を掌ると。

一六〇五

慶長一〇年

江戸城修築の為の塩焚きの移民あり。

一六一二

慶長一七年

朝鮮女性オタ、ジュリアがキリシタン禁教令に違背し神津島に流罪生涯を終えると言う。

一六二九

寛永一六年

地役人石田因幡は伊豆下田の海善寺より秀誉休山和尚を招き、字矢割に浄土宗矢割山を開基、本尊の阿弥陀如来像は室町末期の作と伝える

一六七〇 寛文一〇年

伊豆代官伊那兵衛門の時地役人の制を廃止、大島新島村(現元村)に島手代の庁を置き利島、神津島は直轄、新島、三宅島には手代一人を置いた。

一六七二 延宝元年

検地の結果塩年貢の制度で三〇三俵(一俵は三斗五升入り)口塩(目減り分)八俵余。下付米として五石六斗二合給付される。

一六八九 元禄二年

塩焚きの薪の不足と過労働の為塩年貢を、金納五両永五〇文の納付となる。

一七〇七 宝永四年

一〇月の宝永地震(東海、南海のアベック地震)東海道、伊勢湾、紀伊半島で震害、紀伊半島から九州、瀬戸内海で津浪被害、室戸、串本、御前崎で一、二メートル隆起、高知市で最大二メートル沈下、この地震による津波で神津島沖に材木、家具等が流れ寄り、同月一五日、清水勘六家船が小祠を拾い上げ現在日向に祀られる、なお弁財天縁起は郷土資料館で保管。

一七一六 享保元年

其の頃ボチ火事と云う未曾有の大火で部落大半焼失。本島清水徳左衛門家の祖、丈助が薩摩に漂流してさつま芋の栽培、貯蔵の法を広めたと言う。

一七二三 享保七年

江川代官英暉の後、英勝の代に祖先の借米の代の返済が滞り、且つ代官手代が相模花水橋の工事で賄賂を受けた事が発覚し代官罷免になる。

一七三五 享保二〇年

此の年凶年にして飢餓のために二一人死亡、内、幼児一〇四人。

一七三八 元文三年

地役人、石田因幡、一二月石田姓を松江に改姓。下の沢火事、全村烏有に帰す。

一七四七 延享四年

神津島戸一四五、男二五九、女二九一、計五五〇人

一七五三 宝暦三年

江川代官の手代佐藤信行、吉川秀造、二ケ年に亘り七

一七八二 天明二年

島を巡視「七島巡検志」を編纂、

宝暦三年の戸口から戸数で二七戸増、男一六四人増

一七八五 天明五年

女一九七人増、此れはかつを漁による移住者の増化。日蓮宗不受不施派の僧、隆賢院日照は、三宅島に流罪となるが、禁を破ったとして神津島に島替えとなり、

峠山(山下本館辺り)で文字を広め、没後子弟により、流人墓地に墓碑が作られる。

一七九六 寛政八年

幕府は勘定奉行の下に島々物産会所を江戸鉄砲州に開設、島民に前金を貸し島の物産を集め、一種の専

売制度を敷き、明治維新まで続く。口銭、かつお節干鯉一割。

松江伊豫地役人

松江左京地役人、神津島は寛政の年よりかつお漁の大漁が続き、瀧響寺の建築着工。堂宮師曰井久八。

瀧響寺伽藍完成、次いで物忌奈命神社内宮の覆殿着工文化七年完成

天文方高橋作左衛門、永井甚右衛門、ほか三名、伊豆諸島の地図作成。

松江伊豫地役人再任、此の年悪疫流行、死者一〇二人中幼児八二人。

物忌奈命神社境内の薬師堂に「文政二年三月一〇日左近将源定信書の薬王殿の扁額、江戸住島屋八右衛門親類中とある。定信は江戸後期の老中白河藩主。

房総代官羽倉下記「簡堂」は天保三年伊豆代官として四月二一日神津島を巡検、地役人松江伊予は「毎年正月二四日、南海の神々が物忌奈神社に集まり一年の計をトす、此のため神集島と云うのであり、神津と書くは

誤りであると言う（南汎録）

江川英龍伊豆代官に再任。

英勝が伊豆代官罷免後四四年後に再任、英龍は高島秋帆に西洋砲術を学び、嘉永年に幕府の洋式鉄砲方となり、江戸湾品川にお台場を造り葦山に反射炉を作る。

瀧響寺山門建立、表門通りに敷石敷設。

松江因幡地役人

明治と改元

葦山県に属す、

飢饉の為大島へ出稼ぎ、物品交換のため船出、波浪の為大島差木地下で遭難、男女三六人死亡、差木地に遭難記念碑あり。明治四年まで飢饉による死者二八三人、内幼児一三〇人。

太政大臣三条実美は封建的な専売組織の「七島物産会所」の廃止と、島人、本土人の渡海を許す。

十一月一四日足柄県に移管。

静岡県に移管 此の年汚屋（よごらや）廃止。

阿波命神社、物忌奈命神社が郷社より静岡県社に列す

一八七五  
一八七六

明治八年  
明治九年

一八七一

明治四年

一八五七  
一八六六  
一八六八  
一八六九  
一八七〇

安政四年  
慶応二年  
慶応四年  
明治二年  
明治三年

一八三九

天保一年

一八三八

天保九年

一八一九

文政二年

一八一八

文政元年

一八一五

文化一二年

一八〇八

文化四年

一七九七  
一八〇四

寛政九年  
文化元年

一八七八 明治一二年

一八八一 明治一四年

一八九〇 明治二三年

一八九一 明治二四年

一八九二 明治二五年

一八九三 明治二六年

一八九四 明治二七年

一八九五 明治二八年

一九〇七 明治三〇年

一九〇九 明治三二年

一九〇〇 明治三三年

る。

一月一日、太政官布告第一号により東京府の管轄になり、制度を戸長、島用係、吏員を置いた、戸数三〇六戸、男五九七人、女八四四人、計一七二四人。旧制を廃止、地役人、名主、年寄、及び書役を置き、事務所を島役所とし、地役人は島を、名主は村を所管とした。

四月一三日、現松村商店倉庫の敷地に小学校創立、四月一八日松江半之助世襲地役人(一六歳)

一〇月二七日地役人松江半之助が郵便集配請負人に命ぜらる。本島郵便の始め。

五月二五日東京湾汽船株式会社は、地役人松江半之助と島民総代松本由右衛門により、定期航路につて契約締結される。

六月一〇日地役人松江半之助辞職、七月梅田半之助官選地役人拜命。

内地かつお船との紛争多発、七月、静岡県駿遠両漁民代表、駿河国志田郡藤枝町伊藤禎三と漁業契約結。

本島に警察官駐在、初代鹿児島県人肥後甚六。

始めて医師広川雄二を雇い入れ、一二月より開業野牛の農作物の被害甚だしく、牛狩が行われる。

広川医師種痘を初めて行う。

島民総代四人、名主、年寄の六名で島寄合を組織、村政の決議機関(村議会と同じ)

一二月二〇日、二一日、二二日数十回地震あり。明治二五年の漁業契約期限更改、伊豆国漁業者代表賀茂郡松崎村の石田重一、及び那賀郡田子村、福田力太郎と再契約。

八月二一日、巾着網漁具の使用許可願、鈴木藤次郎石田政右衛門、清水与七、鈴木源六、鈴木与吉、清水柳造連名。

一〇月一六日、地役人、梅田半之助使用認可。

島の人口、男八八一人、女一〇一八人、計一八九九人。

歳末の十二月二四日未曾有の大火、三一〇戸の内一〇余戸を残し、悉く焼失する。

大島島庁が置かれ、大島役所廃止されるが、本島は島

役所存続する。

四月三日英国帆船アイラニアン号（二七九〇屯ニュー  
ヨークより横浜向け航行中、本島南西の銭州礁に衝突  
沈没し、三浦沖を漂流中のバッテリー乗り組みの船員  
十六人を本島漁民が救助。

四月、広川医師生後五ヶ月の牡豚一頭、牝豚一頭を導  
する。入

本島養豚の始め。

本島漁業に関する当時の東京府内務部長あて文書より  
古来より明治二十一年まで、所得高百分の三を課税率と  
する。明治二十二年より同二十五年までの、所得高百分  
の一〇。同二十六年より同三〇年まで百分の八、同二年  
一年に至り此の法を廃止せり。

此の年漁業法発布

明治三二年の大火で焼失した小学校を字矢割に建築開  
始する。

十一月、非常組組織、  
当時の駐在巡查小保方英三郎は、警防上の不備不振を

一九〇一 明治三四年

一九〇二 明治三五年

概し、有志者と諮り、非常組設置を力説企画してこれ  
が勧誘に努力した結果、此の月に至り非常組を設立し、  
初代組頭に松本由右衛門を選び、組員は一八歳から四  
五歳までの男子で組織された。

三月地役人梅田半之助辞職

四月森田靖男地役人拜命着任

明治三二年一二月の大火により焼失した小学校は六月  
復旧建築竣功、四学年、四学級、補習科三年、修学児  
童、男一二六人、女一六人、校庭二七四坪、校舎七八坪、  
開校当時の教員、青山義進、松島源次郎、瓜生延隆氏  
の三名であった。

九月一六日地役人森田靖男と島民総代松本由右衛門は、  
東京湾汽船株式会社社長櫻井亀二と定期航路の開始を  
契約する。

二月に開かれた第五回内国勸業博覧会に本島出品のか  
つお節、干鱈、石花菜（てんぐさ）、椿油が好評を受け  
たと言う。此の年真島千之助を小学校校長として招聘  
する。

一九〇三 明治三六年

五月一四日、漁業組合設立認可される、初代組合長松江半之助、組合員三一人、漁船五間以上二一一隻、五間未満六〇隻。

一九〇六 明治三十九年

六月、村役場庁舎落成、木造二七坪、現郷土資料館郵便集配請負制度廃止、神津島三等郵便局に昇格郵便局長松江半之助。

一九〇七 明治四〇年

戸数三三八戸、男九五八人、女一〇九五五人、計二〇五三人。

七月八日、字与種より出水、山崩れにより死者一六人、(男九人、女七人)重傷六人、軽傷三六人。

家屋全壊三一戸、半壊一三戸と言う未曾有の惨事あり、このこと天聴に達し、救恤金五〇〇円を下賜せらる、各方面からの金品の寄贈は八七四円で、俗に「ながれ」と呼んでいる。

一九〇八 明治四一年

九月、前年につぐ大洪水あり、被害は島北側の山林地帯で人家に被害僅少と言う。

一九〇九 明治四二年

一〇月地役人森田靖男退職、十一月、石見国鹿足郡出身の新井宣哉地役人就任。

一九一〇 明治四三年

三月、帝国在郷軍人会神津島分会結成、事務所は瓜生芳雄(寺隠居)宅に置く。

三月より東京湾汽船株式会社は、神津島航路を毎月五日、一五日、二五日午後六時東京発と、一日の御蔵島線の寄航となる。

但し此の航路は政府の補助航路にして、此の外月二回必要に応じ来航すべき協定を結ぶ。

此の年簡易水道敷設の議が起り、字滝川より土管で誘水して、神社境内を経由土管川(現消防第一分団詰所)と下の沢(万次川)に貯水池を設置した、此の工費二ヶ年に亘り合計金九百四円五八銭。

八月一日、島内道路元標設置元郵便局角。  
九月末の養豚飼育頭数二八五頭、一二月六九頭販売する。

一〇月三〇日島役所に於いて神寄礁(かんき)生州開墾工事の入札を行い、小松川宗吉、中田万平、今津源蔵応札の結果、小松川宗吉落札、落札金額、金一千二百五十七円一八銭

一九二一 明治四四年

内訳、生州工事、一千五十五円五十八銭、南北水門工事、二百一円六十銭。  
十一月四日生州工事着工

七月生州開鑿工事完成

一二月一八日、予ねて出願中であつたバークシャ種豚が、渋谷東京種畜分場より下付される。

本島人大野福太郎(竹源)一二月石油発動機船購入、繩舟漁業を開始、船名福寿丸、日本型発動機船、舟幅八尺五寸、船体長三五尺、馬力一二馬力、速力六マイル、純積載量九〇石、翌年鮪漁の水揚げ高一千円に上がると言う、同漁の成績また良好と言う。

明治四〇年七月の水害被災地砂防工事開始。

峠山に通ずる道は、神津沢を渡渉する為降雨の際は大いに難儀していたが、三月四日請負人小松川宗吉により着工し、七月二一日竣功、渡橋式後物忌奈命神社に於いて養老会、参加者は七〇歳以上男女六〇余名、養老会発起者は、地役人新井宣哉、松江半之助、瓜生延隆氏の三名

一九二二 明治四五年

橋名八千代は新井地役人の選定、橋名揮毫は松江氏此の工費、金五百四十一円四十六銭七厘。

四月、八丈島大賀郷浮田政治出願のもちの木皮剥ぎ取り、鳥糞製造を許可、宇佐原で製造開始、その製造六年に及び、もちの木皮剥取量二万四千七百貫。

東京湾汽船株式会社と交渉し、氷庫を建設し六月一六日竣功、敷地は三六坪、貸付年限二〇年、賃貸料は無料、(現漁業組合氷庫地)工事は東京湾汽船株式会社負担、このうち二〇円づつ役所や、漁業組合より寄付する。総額五百四十五円三十七銭九厘

物忌奈命神社の例祭日変更が東京府知事の許可を得旧暦六月一五日を新暦八月一日と改まる。

七月三〇日改元。

大正元年

一二月四日の夜、瀟響寺に島民一同を召集し、小学校改築がいよいよ迫れる事を諮り、改築に決定す。

一二月一七日本島の徽章を定む。

白百合根大塊三個を東京新宿御苑に献納、同御苑に栽培せらるる旨内苑頭より伝達あり。

一九一三 大正二年

戸数三六八戸、男一〇六二人、女一一四九人、  
計二二二一人

二月二三日、福寿丸で氷五〇トンを積み来たり氷庫  
に格納、氷蔵の始め。

絹さや豌豆の栽培盛んとなり、村内の篠竹の濫伐で  
その伐期について大日本山林会へ照会。

三月、樟苗を穴の山に二千六百本、畑ヶ平に四千五  
百本、砂糠山にも植え付け（本数不明）

四月、東京湾汽船株式会社と毎月二二日、下田、新  
島經由の神津島線開始、是により一ヶ月五回の航海  
数となり、大いに便利を得たり。

四月、新島区裁判所廃止、替えて東京区裁判所所管  
の新島出張所となる。

五月一九日、小学校改築工事地鎮祭及び起工式。

一〇月、生州工事竣功、記念の祝杯を挙げる、会す  
る者、漁業組合役員、同総代、島役所員その他、当  
日神奇（かんき）の龍神宮前で工事の報告祭、工事  
請負人小松川宗吉に地役人新井宣哉賞状与える。

一九一四

大正三年

一二月、小学校上棟式、餅投げの糯米四斗入り四俵  
を要したと言ふ。

三月調べ本島七〇歳以上の老人、七〇歳から七九歳  
六九人、八〇歳から八九歳二七人、九〇歳以上一人

四月三日、飛魚流し網の漁のろ船五人乗りが北西の  
突風により行方不明の惨事あり、

八月一二日北風強し曇り、昨一日より今日に至り  
波浪益々高く、天候思わしからざる兆候を示し、午  
後に至り益々険悪となり暴風雨襲来の模様となり、  
各家々その防禦に努めたり。

午後六時より雨漸く加わり風が頓に増し、同一二時  
頃に至り刻々危険の状態に陥れり。

一三日、風向きは北より東南なり、昨夜来の暴風雨  
は本日午前〇時より同四時に至る間は実に数十年来  
稀有の大暴風雨となり、村内の騒擾例えようも無か  
りし、本日正午に至るも残風尚風ず人々不安の念に  
かられ、其れぞれ防備怠らざりき、この暴風雨によ  
る被害次の如し、家屋全壊一一戸、半壊七戸、



二九日、北風強し雨、本朝に至り風益々強く加うるに雨を交えて刻々と暴風雨襲来の模様となりぬ、人々またも大嵐の襲来かと安き心もなく、警戒おさおさ怠りなかりき、正午頃より遂に大暴風雨となり、去る一二日、一三日以上の大嵐となり、家屋、畑、樹木の損害少なからず、家屋全壊八戸、半壊九戸その他六四戸、また漁船の流失八隻、幸い人命に事無しであつた。

祇苗島の鳥糞試掘を八丈島大賀郷の浮田政治から出願、漁業組合代表、島民総代共に公益上支障ありと不許可とする。

三月、東京新宿御苑頭より、天覧に供したく島産白百合根一〇個の発注あり、その光榮に一〇個の百合根大塊を献上す。

三月六日、本島各団体名で欧州戦乱中の白耳義国(ベルギー)大使宛見舞金を贈る。

七月、三宅島警部補派出所より巡査部長高橋嘉兵衛本島へ赴任する。

一九一五 大正四年

南摩紀磨の暴行事件あり。  
一二月、東京水産講習所派遣の佐原金蔵、鯖、烏賊の漁法及びするめ製法、その釣具の製法を伝習す。

一二月、養豚組合創立、

一九一六 大正五年

一二月、宮原の砂防工事起工。  
一二月一日、新井地役人退職、

尾崎登代太地役人就任。

一九一七 大正六年

三月、地役人制度廃止、尾崎登代太退職。  
四月、和歌山県籍のかつを釣り漁船、(船名不詳)は本島南端の一の首で座礁激突、船員は救助されたが船体沈没。

一九一八 大正七年

四月、明治神宮御造営に就き、本島よりモッコク(周囲二尺一寸、長さ一二尺)を二本を献木する。  
四月非常組を青年団に編入する、初代団長松本鶴松就任

九月、静岡県籍かつを釣り漁船竜王丸が前浜沖から移動中南西の列風に押し戻され、前浜海岸に漂着、船員は全員救助されたが船体は大破。

九月二四日旧暦の十五夜の日、本島に未曾有の大暴風雨襲来、二六日漸く静穏となり、恐怖の内に夜明けを迎えたが、前浜に係留中の漁船一〇隻が避難のため、式根島向け出航したが内一隻が途中で転覆し、乗組み二二人中五人行方不明船体は破壊したと言う、又乗り組み一七人は伊豆田子村の漁船勢力丸に救助された。

破壊した漁船は伊豆安良里村の船で乗り組みも伊豆の漁民と言う、

なをその台風により大小無数の魚が、のまねーの草原（高さ凡そ八〇メートル）に散乱したとされる。

一九一九 大正八年

一月、松本鶴松名主就任。

八月、高知県籍のかつを釣り漁船琴広丸夜間祇苗島に衝突し、船体は瞬時に沈没したが、乗組員は祇苗島に泳ぎ付き。翌日救助された。

九月、長雨の為字ついじ山崩れ被害無し。

一九二〇 大正九年

一〇月、無線電信架設に付き、臨時島寄合会開催、島内寄付金に付き協議。

島役所廃止、大島島庁に属す、新島出張所開設。

一九二一 大正一〇年

九月、消防組設置の申請を行う。

一九二二 大正一一年

四月一日、非常組改め消防組となる、初代組頭に土谷喜代松就任。

一九二二 大正一二年

八月一日、神津島を神津島村と改称。

九月、関東大震災、本島被害僅少。

一〇月、島嶼町村制公布され、名主を村長に、年寄りを入りに、書役を書記に、島民総代を村会議員と改め。初代村長松本鶴松就任、収入役梅田甚之助

一九二五 大正一四年

二月、山口県大島商船学校練習船防長丸（二五〇トン）が本島松山沖岩礁に激突、消防組出動により三〇余名救助したが、船体の浸水甚だしく救助中に沈没、船長等は船橋に籠り船と運命をともにした、犠牲者は船長、学生を含め六名と言う。

無線電信業務開始、

神津島電気株式会社設立、日没より午後十一時まで点灯。

大島島庁を廃し、東京府大島支庁となる、

一九二六 大正一五年

前浜海岸に点在する岩礁（地内釜、間内、海老根、ちよんぼり根）を基盤として繋ぎ、コンクリート防波堤工事を開始する。

一月一九日、簡易水道敷設演習の目的で、松戸工兵隊益田大尉以下三名工事測量の為神津丸で来島。五月、英国商船ネーブルス号は濃霧の為銭州岩礁に乗り上げたが、乗組員は日本海軍々艦に全員救助され、この海難後大根の南南西の岩礁をネーブルスと呼んでいる。

六月一九日、前浜の海中爆破開始（松戸工兵隊）

六月二八日、松戸工兵隊、水野大隊長、山田中隊長等簡易水道工事と前浜海中爆破作業演習作業の視察に来島、即日帰京。

七月二四日、簡易水道敷設完成、八月一日通水式を挙行し、二六日簡易水道、橋梁、前浜海中爆破の演習終了の為松戸工兵隊一行を神津丸で送る。

一二月二五日、昭和と改元。

三月、蛇沢の砂防工事着手。

一九二七

昭和元年  
昭和二年

一九二八

昭和三年

一九二九

昭和四年

一九三〇

昭和五年

在郷軍人分会金比羅下水路改修工事を行う。

九月一四日、神津丸大島差木地下まぶし海岸で難破、死亡二名、三名救助される。

一〇月二三日、正午霞ヶ浦所属エヌ三号飛行船、本島字釜ヶ下で不時着炎上、乗組員七名は、漁業中の地元漁船に救助される。

松本鶴松村長、梅田甚之助収入役退職。

土谷喜代松村長、山田鶴松収入役就任。

六月、横須賀海軍航空隊所属、水上飛行機もうり浜海岸に不時着、僚機数機が飛来する。

二月、第六殿に忠魂碑建設工す。

一〇月一〇日、財団法人済生会神津島診療所開設。榎ヶ沢の石材採掘の契約を丸山誠一と締結、松村商店石蔵の石材。

五月、新島若郷村大火で全焼、青年団、在郷軍人分会、消防組と連合して一般より米、麦、さつまい芋等を集めて清光丸で贈る。

六月一四日、東京府知事牛塚虎太郎東京湾汽船桐

一九三二

昭和六年

丸で来島。  
七月、字榎ヶ沢に桑園を作る。  
天理教神津島宣教所設置。  
十一月、字ごんごん山より出火、山林数十町歩焼  
失した。  
四月青年団長石田仙之助以下団員総動員で、字か  
たふた海岸に道路新設する。  
寒崎湯場に温泉工事着工。

九月、養蚕実行組合設立。

一〇月、小学校に於いて養蚕業開発の為大島支庁  
管内、各島の春繭巡廻展覧会を開く。

十一月、阿波命神社本殿落成する。

神津島漁港の第一期工事完成を見る。

四月、阿波命神社社殿完成遷座祭執行。

神津小学校同盟休校三日間行われる。

東京府知事香坂昌康来島。

二月、林道開設着手。

四月、榎ヶ沢桑園を養蚕実行組合に貸与。

一九三三

昭和七年

一九三三

昭和八年

一九三四

昭和九年

一九三五

昭和一〇年

土谷喜代松村長退職、同九日藤井松次郎村長就任。

四月元世襲最後の地役人で郵便局長、漁業組合長  
を歴任した、物忌奈命神社宮司松江半之助死亡、  
村の功労者としての葬儀を村葬と決定、

従七位勲八等、法名賢照院殿温養慈勲威耀大居士

四月二四日、天気晴朗天地静寂午前一〇時出棺、

各種団体会葬、葬列三町余入場一時半、各団体  
長の弔辞焼香あり盛葬厳粛なり、一代の盛典午後  
三時に散会す。

一〇月、実業補習学校、青年訓練所を廃止、青年  
学校開校式を行う。

一〇月、産業組合設立運動活発となり、其の主旨  
に賛同する者全村に及ぶ。

元旦より一〇日まで六日間、遊覧船紅梅丸就航。

四月、消防団第一詰所鉄筋コンクリートで改築。

五月二日、東京湾汽船株式会社所屬船、幸丸暴風

雨の為遭難せるも九月一〇日、小学校校庭南側に  
校舎増築落成。

一九三六

昭和十一年

九月一九日海軍艦砲射撃の為、駆逐艦しおかせ来航、同二二日、戦艦陸奥来航、午後より射撃開始午後八時まで、主砲射撃距離二万五千メートル、音響万雷落つるが如し。

一〇月三日、台風襲来引き揚げてあつた漁船、市十丸寅一丸、清八丸大破、漁業組合倉庫流失、防波堤に甚大なる被害を受ける。

一二月二四日、藤井松次郎村長辞任、前田源太郎就任。

一二月二七日朝より、頻発地震あり、被害無し。

新島本村地震のため大被害あり、見舞いの為村内各団体代表者を派遣する。

一九三七 昭和一二年

一月一日、国防婦人会設立、発会式を挙行。

七月、東京湾汽船の菊丸で観光団六四名来島。

一〇月四日、夜に至り十数回の弱震あり。

一九三八 昭和一三年

四月、陸稲の種子を一般農家に配布。

伊豆より蚕種鑑別婦人五〇人、片倉製糸関係者二人来島。

六月三〇日、十人組設置する。

七月、砂防工事施行地域視察の為、諸戸博士、東京府高岡技師、木村技手来島。

戸数四〇六戸、男一〇七四人、女一〇九四人、計二一六八人。

一九三九 昭和一四年

一月、村有地貸付杉山台帳の作成と測量調査を字沖の沢地区より始める。

四月、消防組を廃止、警防団を結成する。

一九四〇 昭和一五年

普通町村制施行。

三月、三宅島阿古村の平野徳三郎甘薯種子買取に来島。

七月、前田源太郎村長任期満了、村長選挙の結果当選再任する。

三宅島噴火、死者一人、家屋六二戸焼失、山林耕地の被害大。弁天丸傭船して各団体代表噴火見舞いに派遣。

一九四一 昭和一六年

一月、満州開拓団として五名渡満。

二月、字猿ヶ崎牧野を畜産組合に貸し下げる。

一九四二 昭和一七年

- 七月、神津島で新島、若郷、式根、神津の各国民学校共催で、水泳大会を開催。  
青年団を青少年団と改称する  
九月、陸軍予備兵三九人臨時召集来り、小笠原諸島守備のため出征する。  
一〇月、産業組合設立ス道のため、産業組合中央会東京支会より江本主事来島。  
一二月八日、大東亜戦争勃発。  
森林組合設立。  
産業組合設立総会を瀧響寺本堂で開催、初代組合長村長前だ源太郎。  
五月、乃木將軍銅像除幕式。  
八月、大政翼賛会神津島支部及び翼賛壮年団並びに大日本婦人会神津島支部結成する。  
木造二階建ての神津島村診療所新築落成する。  
一〇月瀧響寺第二六世住職、瓜生延隆和尚急逝す。  
三月、村営診療所を恩賜財団済生会に譲渡する。  
三月、平草倉庫三棟原因不明の火災で焼失。

一九四三 昭和一八年

四月、前浜に機雷漂着、機雷処理のため掃海艇来島する。

神津島電気会社が関東配電株式会社に統合される。

七月、前田源太郎村長退職、石田彦治郎村長就任。

一〇月、特別警備隊第七八九三部隊配置

一二月、字惣四郎地区を食糧増産の為各区毎に開墾開始。

一月、和歌山県籍かつを釣り漁船大宝丸は、西海岸航行中、高浪のため機関部浸水して漂流、翌日未明に長浜海岸に漂着、船体大破乗組員は全員救助される。

三月、村内に電話開設する。

三月、海軍水兵遺体一四柱漂着、四月、同じく一体漂着する。

六月、三重県籍かつを釣り漁船宇津丸は小浜十字の磯で遭難、船体大破乗組員一名犠牲と成る。

警備道路（現在の都道多幸線）着工する。

七月、暁部隊所属の船舶五隻が米軍機を避けて夜

一九四四 昭和一九年

間東海岸を航行中、南東の烈風に逢い多幸湾に二隻、三浦湾に二隻、前浜海岸に一隻それぞれ座礁死傷者数十名と言ふ。

大東亜戦争日に日に苛烈の度を加え、島内各所に陣地構築、兵舎建築、退避壕の構築を急ぎ、秩父山に陸軍通信観測隊を置く、警戒警報、空襲警報が頻繁に発令される。

一九四五 昭和二〇年

二月二七日、忠霊塔完成除幕式挙行。

三月一四日、午前一一時頃、米軍機北より南に通過の後、直ちに引き返して恩馳島付近で出漁中の地元漁船、政八丸、甚次郎丸、孫七丸、清源丸、伝兵衛丸、勘七丸、吉十郎丸を突然機銃掃射を行い、孫七丸は被害皆無であったが、他の漁船は機関部から炎上大破、又航行不能この銃撃により死者六名、負傷者五名の惨事となる。

又その日以来行方不明の万作丸は、一六日に千葉県鴨川港に無事入港の電信があった。

五月暁部隊の船舶に便乗して、縁故疎開者下田宛出

発する。

住民疎開先予定の山形県へ、櫻井助役、清水、鈴木両村議は、同県南村山郡、東村山郡を視察し疎開地決定の入電があったが、当時本村の砂防工事に深く係わりのある、高岡新平氏等の斡旋で東京西多摩郡に変更される。

六月一二日、午前九時二〇分空襲警報発令と同時に米軍機二機来襲、機銃掃射と焼夷弾六〇個ほど投下、松江大家始め八戸全焼、神社薬王殿、矢大臣門焼失、一二時半頃鎮火。

六月一五日、米軍機来襲、漁船九隻炎上、五隻大破の被害あり。

七月一日、五区、七区、之住民三〇〇人伊東經由疎開出發する。

七月三日、八区の一番組及び二番組疎開地へ出發。

七月八日八区の一二〇人疎開出發。

七月中に二区、三区、四区、九区、一〇区は、連日の空襲下に高砂丸、伊勢丸、永寿丸でピストン輸

送で疎開の輸送に当る。

七月三〇日、米軍機一六機が入り乱れ村内に機銃掃射と焼夷弾を雨の如く降らせ、一区の家屋三六戸全焼し、村民二名が犠牲となった。

八月八日、一区は神社御神体と共に波勝丸で夜間伊東向け出発、神社御神体は青梅市の御嶽神社に預託される。

八月一五日、天皇の終戦詔勅、大東亜戦争終結し、疎開準備をしていた、六区は疎開中止、

九月二日、伊東滞在中の一区住民は、疎開地へ向わず永寿丸で帰村、

九月九日、九区住民波勝丸で帰村。

九月一七日、在郷軍人会、並びに義勇隊解散する。

九月一九日、下田方面に縁故疎開した住民清光丸で帰村する。

九月中に西多摩方面疎開住民、南海丸、長整丸、波勝丸で全員帰村する。

十一月一日、米国駆逐艦一隻来島、米海兵一七名

四六 昭和二十二年

上陸し島内視察し、夜橋本屋旅館に一泊する。

一月二九日、連合軍最高司令部より、日本政府への覚書「特定外国防域の日本政府よりの政治的行政分離に関する件」によって本島も日本政府より行政分離されたが、過渡的に日本政府側の行政機関の存続が認められたため、本島にも特記するほどの混乱は無かった。

五月、神戸山石材について、日産科学工業株式会社より社員二名来島し、採掘の契約を行う。

食糧対策委員会結成、字惣四郎地区を各区に分配貸付耕作を始める。

一二月、農地委員会設置される、石田彦次郎村長退職、

一九四七 昭和二十二年

農地制度改革、

三月、連合軍命令により、大六殿の忠霊塔撤去。

四月、学制改革により、新制中学校を小学校南校舎で開校、国民学校を小学校と改称

村有林字おれっち火災発生、隣島式根、若郷の警防



団員五〇余名応援の為来島。

松江春之助村長就任。

南西の突風襲来、港内係留中の清光丸沈没、その他漁船三隻小破する。

都議会議員菊地民一氏来島。

五月、進駐軍調査団一行多幸湾より上陸来島。

七月、都知事安井誠一郎来島、随員三十名。

祇苗島鳥糞土の件について鉦山監督局員、及び山田毅一氏来島。

八月、多年に亘り歯科診療所を開業していた、杉坂歯科医師帰京される。

九月、関東配電発電所発電機搬入に警防団奉仕。

十一月、不燃焼火薬処理の為、漁船で長浜作根沖に運び、爆破処理事故あり。

進駐軍ヤング少佐以下八名来島。

制度改正により、警防団を消防団に改称する。

三月、農業会を解散、農業協同組合設立。

五月、神社奉賛会を結成。

一九四八 昭和二十三年

七月、農業共済組合設立。

八月、大島支庁管内村長会が神津島で開催、大島六人、利島村、若郷村、新島本村、神津島の各村長と大島大貫支庁長参加。

多年本島の医療に貢献した、北川医師郷里に帰えられる。

二六日、日本脳炎発生、幼児一名死亡、東京都から池田防疫官来島

大洋グアノ株式会社と、祇苗島鳥糞土採掘許可の契約を結ぶ。

六、三制施行のため須加原に中学校建設計画。

農地委員会解散し、農業調整委員会発足。

戸数四六〇戸、男一二三一人、女一二三二人、計二五五四人。

二月、中学校建設資材充当のため、字榎木沢の杉材を各区に割り当て伐採する、

三重県籍志摩郡波切町の漁船、共進丸前浜に座礁船体大破、乗組員四名全員救助する。

一九四九 昭和二十四年

一九五〇 昭和二十五年

四月一日、神津島港が地方港湾の指定を受ける。  
六月一日、神津小学校PTA発足、教育後援会解散、  
資産はPTAに引き継ぐ。  
漁業会は漁業協同組合に移行する。  
中華人民共和国成立。  
三月失業対策事業開始。  
祇苗島（一〇町六反八畝二五歩）払い下げる、こ  
の代金八千三〇〇円。  
瀧響寺大松（樹齢二五〇年余）枯死により倒伐、  
この松は樹齢から宝永年間の生育か。  
天上山登山道を黒嶋に開設する。  
高知県籍鯉釣り船盛徳丸は、恩馳島付近で操業中  
激浪のため座礁沈没、乗組員三一名が犠牲になる。  
一〇月、高知県籍鯉釣り漁船第二八琵琶丸は、恩  
馳島付近で操業中、暗礁に激突瞬時に沈没、僚船  
四七隻の搜索も空しく全乗組員三六名犠牲になる。  
十一月、小学校創立七〇周年記念式典実施。  
十二月、中学校建設敷地の奉仕作業着手。

一九五一 昭和二十六年

二月、土谷喜代松、宮川音之助、櫻井亀之助、清  
水彦次郎、清水庄之助、藤井松次郎自治功労者と  
して表彰する。

四月、松江春之助村長再任。

宇須加原に中学校校木造第一校舎落成。

六月、海低有線電話敷設船釣島丸で電話線敷設。

一二月神津島灯台竣功、同月一五日点灯開始。

二月一日、清水吉之助を自治功労で表彰する。

七日、北東の風強く東海汽船所属の三郎丸は神津  
島港沖合いで仮泊中午後一〇時頃行方不明、六〇  
日後、新島と利島間の海底で沈没と判明。

海底有線電話使用開始（稲取、下田方面）

五月一六日、中学校第二校舎落成、此の日前田源  
太郎の自治功労者表彰を行う。

九月、台風一三号により港内係留中の峰尾丸船員  
の救助を行い、消防団員三名が勲章を授与される。

二月一日、神津島村主婦の会結成。

二月二〇日、清水彦次郎、松江兵太郎、鈴木半之

一九五三 昭和二十八年

一九五四 昭和二十九年

一九五五 昭和三〇年

助、消防功勞者として表彰。  
四月、公営住宅六等建設（須賀原四戸、ついじ二戸）竣功。  
八月一日、東海汽船高砂丸船長、安西伊勢松、住民の利益功勞者として表彰。  
二月、本村産業開発に貢献した松江清功勞者として表彰する。  
四月、松江春之助村長再任。  
六月一八日、松江半之助及び松本鶴松両氏の頌徳碑建立する。  
八月、本島黒根沖で夏鰯刺網操業中の、式根島漁船々員が大鮫に襲われ行方不明になり、神津漁協の組合員も搜索に参加、  
一〇二一日、三浦漁港が第一種漁港に指定される。  
十一月、国籍不明の飛行機二機が恩馳島を数回旋回して爆撃をする、「後日米軍機の誤爆と米軍調査で判明する」  
このことに付き、海上保安庁巡視船しきね来航調

一九五六 昭和三一年

査を行った。  
二月、戦災を受けた薬王殿起工式。  
四月、農協利用工場より出火全焼する。  
五月、金比羅宮境内に児童遊園地開設。  
八月、神津中学校に於いて神津沢治山治水工事、三〇周年記念式挙行する。  
四月、済生会神津島診療所は経営不振で、土地、建物、診療施設及び機器一切を村で買い受け、村営として診療を行う。  
五月、稲村担元文化財調査員として来島、予備調査を行う。  
七月、後藤団長以下文化財総合調査団来島、地質、植物、動物、風景、建築、美術、文書、芸能、考古、民俗、言語、史跡等多岐に渡り調査を行う。

一九五七 昭和三二年

二一日、大島支庁管内村長会、大島元村、泉津、岡田、野増、差木地、波浮、利島、若郷、新島本村、神津島の各村長と、大島支庁長外支庁職員と各村職員等で三〇余名。

一九五八 昭和三十三年

七月、警視庁音楽隊、巡視船むろとで三八名来島、小学校校庭で演奏を行う。

九月、自治功労者として渡辺丈太郎表彰。

一月六日、三二年度及び三三年度継続事業の、簡易水道新設工事の起工式を第四水源地浮山の水畔で行う。

戸数五一七戸、男一三六七人、女一四八八人、計二、八五五人。

一月、神奈川県籍三浦市三崎の漁船武田丸は、暴風雨の為恩馳島西海岸で座礁沈没、乗組員一八名中一五名が犠牲となり、消防団員は数日遭難者捜索に従事する。

三月、物忌奈命神社の神事「かつを釣り行事が郷土芸能として、東京都文化財の子弟を受ける。

中学校第一〇回卒業生が宇榎ヶ沢に卒業記念として杉苗三〇〇本植樹する。

阿波命神社旧社地の石積みが東京都史跡に指定。国民健康保険制度により、診療所を国民健康保険

診療所に移行する。

七月、自衛隊法第八三条により、自衛隊へリコプターの災害派遣要請制度が決まる。

国保診療所にレントゲン装置する。

一一月二二日から東京電力発電所は昼夜送電開始。

三月、青年研修所竣功。

四月一〇日、簡易水道竣功する。

松江春之助村長任期退職、前田源太郎村長に就任。

九月、神津島村交通安全協会設立。

皇太子殿下御成婚記念、都行造林地の地拵え。

椎茸栽培者増加。

三月、自衛隊へリコプター発着地点調査、中学校校庭に決まる。

八月、懸案の村道の都道編入について都建設局道路監理部長近藤竜一來島し調査。

一一月小学校開校八〇周年挙行。

皇太子御成婚記念造林、字中宮塚六町五反四畝、字こいも二町五反歩開始。

一九五九 昭和三十四年

一九六〇 昭和三十五年

一九六一 昭和三六年

戸数五一六戸、男一三九七人、女二四六三人  
計二八六〇人。

郵便局の無線電信鉄塔二基を解体払い下げ、火の見やぐらを設置。

三月、建設中の国保診療所竣功。

六日、中学校第二校舎増築竣功。

三十一日前田源太郎村長健康上の理由で退職。

四月、松本一村長就任。

五月、高知県籍、かつを釣漁船大洋丸は恩馳島付近で操業中、暗礁に激突して船体は大破、乗組員は全員救助される。

六月一五日、村道、長浜く多幸線八一〇米が、東京都道二二四号線に認定される。

十一月一六日、都鈴木副知事へリで来島する。

自治功労者として故石田彦治郎、櫻井由松表彰される。

この年災害派遣で救急へりを五回要請、内一人は輸送中死亡する。

一九六二 昭和三七年

四月三日、国有地の天上山四一町四反六畝四歩、この代金一〇万五千円で払い下げを受ける。

神津沢砂防第三堰堤竣功、都議会議員渡辺文政、都建設局河川部長一行来島、

下田く神津島線に新造船あじさい丸就航し、日帰り観光団四五〇人来島、

七月三〇日、東京都知事、東竜太郎来島。

八月二四日、三宅島噴火、家屋焼失五戸、山林耕地被害甚大、海岸一周道路一八〇〇米、二ヶ所で埋没、学童千葉県館山市に疎開。

三〇日、三宅島噴火災害見舞いの為稲荷丸を傭船、村長以下七名を派遣する。

三宅島噴火の前後頻発地震あり、島内災害続出、災害対策本部（七日間）設置する、この地震により、第二水源枯渇する。

一月より一二月末まで本島上陸人員六、五六五人  
乗船人員五、八八三人

一九六三 昭和三八年

神津島村災害対策本部条例制定。

一九六四 昭和三九年

四月一日、老人クラブ千鶴会発足結成。  
四日、神津沢に水源ボウリング、日量四五〇ト  
ン確保。  
五月小学校新築校舎第一期工事竣功式。  
七月、テレビ共牒組合設立、八月、小学校第二期  
工事着工する。  
五月から八月中の観光客は四、九二〇人。  
一〇月一九日、三浦漁港起工式を舟戸ヶ沢で執行。  
神津沢下流に架橋する橋名応募、「潮見橋」入選者  
清水光枝。  
一二月一〇日、共聴テレビ塔を字那智に架設。  
林道秩父山線開設工事着工五〇〇〇米、六年計画  
一月より一二月迄上陸六、二七五人  
乗船五、四六二人  
三月三日、神津小学校第二期工事竣功、鉄筋コン  
クリート二階建て校舎完成、落成式挙行する。  
四月一日、塩見橋の渡初式、清水新平家三夫婦。

一九六五 昭和四〇年

新島警察署警部補駐在所落成。  
六月、擬似赤痢患者発生六七名、又猩紅熱患者二  
三名発生、擬似赤痢患者を小学校第三校舎に、猩  
紅熱患者を青年研修所に収容する。  
八月、NHK厚生文化事業団診療班来島。  
五月より八月迄の上陸観光客、五、五八八人。  
一月より一二月迄の上陸六、五六五人  
乗船五、八八三人。  
富士箱根伊豆国立公園に編入される。  
神津島村防災計画書作成する。  
一月、大島町元町大火、災害見舞いに六名派遣。  
三〇日、午後七時、神津島港口で整運丸座礁転覆、  
乗組員三名行方不明になる。  
三月、ゴミ処理場を字鍛冶山大沢に設置。  
松本一無投票村長再選される。  
観光協会設立する。  
五月から八月迄の観光客八、〇四四人。  
六月から頻発地震発生、一〇月迄一五〇回以上。

一月、頻発地震調査のため、気象庁諏訪調査官一行三名来島する。

頻発地震取材の為NHK他TV局ラジオ局、各新聞記者来島。

警視庁無線通信班ヘリコプターで来島。

頻発する地震災害に備え、東京都は「神津島に対する災害救助計画」を定め、災害通信の方法、島民の避難計画について連絡あり。

二五日、海上自衛艦「さくら」で警察庁、警視庁一行六名来島、

二六日、緊急無線機を警部補駐在所に設置、毎日二回の定時通信開始。

二九日、下田海上保安部巡視船「すみだ」来航、異常発生時の第三管区海上保安本部巡視船派遣計画について、多田船長と村側と打ち合わせ行う。

電信電話公社と非常事態発生時の通信確保について打ち合わせを行う。

臨時災害対策本部要項決まる。

来島中の警察庁、警視庁一行ヘリコプターで帰京。

一月中震度一から四の地震一四八回あり。

一二月、フジテレビ、東京新聞記者取材の為、来島する。

一四日海上自衛艦「さくら」「かり」前浜、多幸湾付近の海辺水深調査の為来航、横須賀地方総監部第三幕僚班長磯辺一佐以下三〇名上陸、役場会議室で災害対策打ち合わせ会を行う。

横須賀地方総監部防衛部編「神津島災害地誌調査」印刷配布する。

一二月中の一から二の有感地震二八回。

一月から一二月迄の上陸人員八、九五六人

乗船人員八、九九五人

戸数五〇二戸、男一、三〇六人、女一、四一二人

計二、七一八人。

地震を伴う火山爆発を想定して、その非常事態に備える為に、警視庁に無線電話架設する。

四月二〇日、都営ロッジ多幸榎木沢に竣功、開所

式を行う。

学童の集団風邪発生小学校休校、日赤東京支部より救護課長佐々木医師及び看護師二人派遣来島診療開始する。

四月一日、老人クラブ千鶴会は、会員増により千歳会を併設する。

四月一四日、日赤佐々木課長一行帰京される。

学校給食センター小学校で火入れ式。

五月、東京大学地震研究室で地震計設置、観測を開始する。

九月、保育園開園式、「はまゆう保育園」と命名。字面房地区にヘリポート完成。

一〇月、東京都財務局長近藤龍一他六名来島、漁港、林道、ヘリポート等視察。

十一月、東京都総務局関根局長ヘリで来島、公共事業等視察。

教員住宅二階建て三棟（八世帯）建設。

東京医科歯科大学の厚意により五月より一月迄に

## 一九六七 昭和四二年

派遣された歯科医師は七名であった。

一二月三十一日、稲荷丸遭難行方不明。

一月一日より一〇日迄「稲荷丸捜索本部」設置  
村民総動員で海辺を捜索するも、乗組員船体とも行方不明二月本部解散する。

三浦漁港が都経済局から港湾局に移管される。

五月、多幸ロッジに電灯架設。

七月、第二〇回伊豆七島青年大会開催、同時島嶼町村助役会、教育長会、島嶼農業会議等開催す。

七月から八月中に来島した観光客等二万四千人  
東京都美濃部知事、橋本広報室長、横田総務局長  
玉井港湾局長一行視察の為来島、小学校講堂で地元代表と対話集会を行う。

きぬさや豌豆の作付け五〇ヘクタール。

一〇月、式根島婦人会二一名、きぬさや栽培見学に来島する。

台風三四号きぬさやの被害七〇パーセント推定。  
都営住宅独身寮（四世帯）平屋一棟建設する。



一九六八 昭和四三年

東京医科歯科大学の厚意により、四月から一月迄に派遣された歯科医師は七名であった。

一月から一二月迄の上陸人員二八、四六五人、

乗船人員二八、一一九人。

一月、小学校関成延校長「離島の教育」を出版する

都営飛行場建設用地の測量開始。

二月の地震による落石により、字鍛治山の水道導水管破壊される。

農道面房焼山線幅員四メートル、長さ六〇〇メートル舗装第一期工事、金一千万円で完成。

前浜に都営公衆トイレ一棟設置。

都議会議員菊地民一より寄贈の桜樹、老人クラブ明治百年記念に植樹。

四月、ごみ、し尿処理について業務委託開始。

神津島村明治百年記念祭推進会議設置。

六月、簡易水道第二地下水源掘鑿日量二五〇トン。

七月、多幸に第二ロジ新築落成。

都営炊事舎、トイレ、多幸湾、沢尻湾、長浜湾に設置する。

一〇月二三日、神津島明治百年記念祭、式典、行事、事業が盛大に行われる。

この日、各種表彰者は二二名(男二二名、女二名)一二月一六日、東京都鳥と離島間の直通防災無線電話設置、同日午前一〇時三〇分、美濃部知事の挨拶あり。

一月から一二月迄の上陸人員、三九、八一六人、乗船人員、四〇、八一九人、

昭和三〇年第一種漁港指定された三浦漁港が、陳情、請願の結果二月二八日、農林省告示第二四五号により、第四種漁港に昇格、

三月、茶樹一〇〇〇本、立川農業試験場藤津技師持参来島、農業試験地へ仮植する。

五月二日、観光団八〇〇名、東海汽船「たちばな丸」で来島、観光シーズンの始まりである。

六月二八日、神津島明治百年記念事業として起工

一九六九 昭和四四年

された千歳橋の竣功式を行い、渡橋式に松江音吉家三夫婦渡り初めを行う。

橋の長さ一八メートル、幅員メートル、内歩道、一、五メートル、この工費七、九九五千元

五月から八月までの来島人員、四万二千四百人。民宿業者一二三軒となる。

一〇月一五日、物忌奈命神社本殿屋根瓦葺き替え  
一〇月、防風山下に学校プール用の揚水工事の結果、日量一〇〇トンの淡水を確認する。

一二月一日現在の戸数五二二戸、男一、一六七人、女、一、二一九人、計、二、三八六人。

一月から一二月迄の上陸人員、四七、六二九人、乗船人員、四七、〇六〇人。

二月、低気圧来襲の中、簡水道地価一号、二号の集水管の清掃工事続行、従来の水量五〇〇トンを確認する。

畑地灌漑用の水井試掘の結果、字深い道で地下八メートルで日量八〇〇トンに水量確認する。

三月一三日、福祉センター完成、鉄筋コンクリート二階建て、総面積、五三四、九平方メートル、三月二〇日、七軒町に東京都大島支庁神津島出張所の新庁舎落成する。

三月三十一日、字防風に学校用水泳プール第一期工完成、プール長さ二五メートル、幅一メートル  
村営ロッジの経営を農業協同組合に委託する。

五月、第一回ジュリア祭、参加者都内カトリック信者等四〇〇名、

六月、第三地下水ボーリング、結果日量八〇〇トン揚水確認。

日本放送協会技術本部より、竹内副主管来島、NHKの施設の地局調査を行い。受信地を網ん沢上に送信地を御殿山と決定する。

七月三日、字赤羽に無線中継所完成、

五月より八月迄の上陸人員は五九、五〇〇人、民宿業者一四三軒になる。

九月二五日、神津島空港設置促進協議会を結成。

五月二三日、第二回ジュリア祭執行、参加者四八〇名、招待者五〇名、なをミサを行う前に顕彰碑の除幕を、顕彰会長村長松本一、白柳大司卿及び韓国ロウ大司卿が行う。

五月二十七日、中学校体育館の落成式挙行。

五月二十八日、字深い道の井戸より字焼山の農業用貯水池へ送水開始。

七月一二日、午前六時、南西の風波の中を東海汽船所屬橋丸(たちばなまる)接岸。花火の打ち上げ、小学生の鼓笛隊演奏、テープ、カット、船長に花束の贈呈を行なう。

五月から八月迄に来島した人員五九、五一四人。八月二日、観光客が天上山に登山したが帰村せず警察機動隊員、青年団員、役場職員捜索の為登山するが、濃霧のため発見出来ず下山の途次、スナックで乱闘事件発生、巻き添えの観光客負傷。

一〇月二四日、恩馳島で伊勢蝦の密猟船六隻を発見、神津島港曳航する、密漁伊勢蝦は五〇〇キロ

一〇月二十九日、字宝崎の電電公社用地の買収三三〇余坪漸く解決する。

十一月、村民運動会開催。

一月から一二月迄の上陸人員、六八、七三六人、乗船人員、六八、三一一人。

三月二三日、年毎に観光客の増加に伴い、その治安確保の為新島警察署神津島警部補派出所の設置が決まる。初代警部補は鈴木宏氏。

四月九日、多年の念願である都立神津高校設置開校、地元中学卒業生六〇人入学、入学式は小学校体育館で執行、当分小学校教室で授業開始する。

五月二十八日、第三回ジュリア祭が行われる。

六月一四日、バス二台到着する。

六月二三日、懸案の役場新庁舎が字金比羅の西側に竣功旧庁舎より移転、鉄筋コンクリート二階建七二七、三平方メートル、落成記念式典を行う。

七月七日、都道なぎさ橋袂に交通信号機設置、

七月二四日、東電発電所火災発生、観光シーズン

五月二三日、第二回ジュリア祭執行、参加者四八〇名、招待者五〇名、なをミサを行う前に顕彰碑の除幕を、顕彰会長村長松本一、白柳大司卿及び韓国ロウ大司卿が行う。

五月二七日、中学校体育館の落成式挙行。

五月二八日、字深い道の井戸より字焼山の農業用貯水池へ送水開始。

七月一二日、午前六時、南西の風波の中を東海汽船所屬橘丸(たちばなまる)接岸。花火の打ち上げ、小学生の鼓笛隊演奏、テープ、カット、船長に花束の贈呈を行なう。

五月から八月迄に来島した人員五九、五一四人。  
八月二日、観光客が天上山に登山したが帰村せず警察機動隊員、青年団員、役場職員搜索の為登山するが、濃霧のため発見出来ず下山の途次、スナックで乱闘事件発生、巻き添えの観光客負傷。  
一〇月二四日、恩馳島で伊勢蝦の密猟船六隻を発見、神津島港曳航する、密漁伊勢蝦は五〇〇キロ

一〇月二九日、字宝崎の電電公社用地の買収三三〇余坪漸く解決する。

十一月、村民運動会開催。

一月から一二月迄の上陸人員、六八、七三六人、

乗船人員、六八、三一一人。

三月二三日、年毎に観光客の増加に伴い、その治安確保の為新島警察署神津島警部補派出所の設置が決まる。初代警部補は鈴木宏氏。

四月九日、多年の念願である都立神津高校設置開校、地元中学卒業生六〇人入学、入学式は小学校体育館で執行、当分小学校教室で授業開始する。

五月二八日、第三回ジュリア祭が行われる。

六月一四日、バス二台到着する。

六月二三日、懸案の役場新庁舎が字金比羅の西側に竣功旧庁舎より移転、鉄筋コンクリート二階建七二七、三平方メートル、落成記念式典を行う。

七月七日、都道なぎさ橋袂に交通信号機設置、

七月二四日、東電発電所火災発生、観光シーズン

一七九三 昭和四八年

の為給水に支障あり。  
一〇月一八日、「オタ、ジュリア故国に帰る」をテーマにNHKカメラリポート取材班来島し、取材を開始する。  
一〇二三日、韓国親善訪問団結成、团长村長松本一流人墓地のジュリアの墓土を持参出發する。  
十一月八日、地籍調査開始について都農地課より担当係来島、説明会を開催する。  
十一月二三日、第二回村民運動会を中学校校庭で開催する。  
一月二四日、テレビ共聴施設、自主放送施設の入札執行、古川電工落札。  
四月一日、地籍調査開始の為、公図対策審議会を設置する。  
五月二〇日、午前九時、自主テレビ放送開局、舟橋副知事、都総務局長列席し、第二チャンネルで村長の挨拶と副知事が都知事の祝辞を初放映する。同日、都立神津高等学校新校舎落成式を舟橋副知

一七九四 昭和四九年

事参加して挙行する。  
五月二七日、第四回ジュリア祭、参加者八〇〇名。  
六月二〇日、都田坂財務局長以下九名、行政視察来島。  
七月二日、簡易水道はメーター計量制に移行する。  
一月三日、第三回村民運動会開催。  
一月元旦、自主テレビで村長の年頭の挨拶放送、三月、観光客の増加の為、第四号井戸堀削、日量二四〇トン確保する。  
五月一九日、第五回ジュリア祭九〇〇名参加  
五月二一日、警視庁三井副総監来島、  
六月一五日、美濃部都知事以下一〇名来島、港湾漁港、空港予定地等を視察、  
都労働局長、労働厚生部長は勤労福祉会館建設の為住民及び青年と対話集会を開く。  
七月、中学校の移転について現在地（字宮原）へ移転決定、建設工事入札、落札社、東亜建設協同企業体。

一九七五 昭和五〇年

七月一三日、神津、熱海間航路開始、  
八月一五日、公明党、鈴切代議士空港予定地等視  
察の為来島。  
三月五日、老人福祉館（よたね会館）落成。  
三月二二日、神津中学校新校舎、体育館完成、落  
成式を挙げる。  
三月、高根地区の農業振興のため畑地灌漑用井戸  
試掘成功する。  
四月二二日、都財務局用地部長等来島、空港予定  
地の実測開始。  
五月九日、国土庁離島振興課児玉課長等来島、離  
島振興事業の視察を行う。  
五月一八日、第六回ジュリア祭、バチカン国大使  
等七〇〇名参加。  
六月二一日、都議会住宅港湾委員会が本村で開催、  
閉会後港湾等の視察を行う。  
物忌奈命神社拝殿シロアリ被害による建替落成。  
八月二八日より空港用地の買収契約始める。

一九七六 昭和五一年

一一月一五日、字惣四郎に屠畜場入札、  
四月一四日、会計監査院による長根山二次構の蚕  
舎桑園事業の事業効果の検査実施。  
五月一五日第二回つつじ祭。  
五月一六日、第七回ジュリア祭。  
五月二五日、ごみ焼却一〇トン炉完成、火入式。  
六月一二日漁協センター落成。  
一〇月一四日、ジュリア賛美日韓親善婦人交歓団  
一三名、韓国へ出発。  
新島警察署神津島警部補派出所落成。

一九七七 昭和五二年

三月九日、やよい橋竣功、渡橋式に石野田喜平家  
三夫婦渡り初め、橋名入選者、土谷定吉、  
三月一〇日、神津島村商工会設立、福祉センター  
で設立総会を行う。  
四月、松本村長再選。  
五月一五日、第八回ジュリア祭。  
六月二九日、三浦漁港ケーソン到着。  
八月一五日、瀟響寺境内に戦没者、戦災死者の慰

一九七八 昭和五三年

塔建設、除幕式及び法要を営む。  
一月一日、作曲家団伊玖磨記念講演会。  
二月七日三浦漁港の砂防堤の位置変更について  
都離島港湾部柳堀計画課長来島、村議会議員、漁  
協役員、船主等に説明会を行う

一月一日、明治二十一年一月一日太政官布告で  
伊豆諸島の東京移管を記念して記念式典執行

同日、旧役場庁舎を郷土資料館として開館。

神津島村の紋章決定、入選者高津高校室橋栄治。

三月十八日、伊豆諸島東京移管百年祭を日比谷公  
会堂で開催、婦人会日比谷通りで大漁踊り。

八月二〇日、武道館落成、防衛大学校長（元警視  
總監）土田国保を名誉館長に推戴。

一九七九 昭和五四年

五月二十六日、天神橋完成、

七月四日、長野県佐久市長神津武士他一行四三名  
来島、字半坂に佐久市と神津島村の友好記念碑の  
除幕式を行う。

一〇月一九日、台風二〇号の高浪により、港湾、

一九八一 昭和五六年

漁業施設、道路等に被害甚大。

一月、神津島村社会福祉協議会設立。

三月七日、神津小学校開校百年記念式典執行。

三月、村落南側の給水の改全と、非常用水の備蓄  
を目的に宇平担沢に第五号井堀削、日量三〇〇ト  
ンを確保出来る。

佐藤治雄村長当選。

一九八二 昭和五七年

五月一日、建設中の船客待合所完成。

六月一六日、榎ヶ沢にスポーツ広場完成。

八月一四日、観光滞在客七七九四人。

八月一七日神津島港に客船二隻接岸する。

九月、神津島開発総合センター着工。

一九八三 昭和五八年

神津島港防波堤大型ケーソン据付。

九月、ニヶ年継続の開発総合センター落成。

一〇月、三宅島雄山噴火、阿古地区溶岩流で埋没、

義援金、救援物資を輸送する。

一九八四 昭和五九年

字鉄砲場に第六号井堀削、日量二〇〇トン確保。

蛇沢に国保診療所、保険センター着工。

一九八五 昭和六〇年

三月、従来の有線による放送を廃し、無線局による同報系防災行政放送開始、村内のスピーカーと戸別の受信機で緊急の一斉放送整備。  
佐藤村長再選

五月、工事中の国保診療所完成する。

九月、ハマユウ保育園の改築着工。

一九八六 昭和六一年

三月、空港設置促進協議会委員、建設促進のため、関係省庁、関係代議士、都議会議員に陳情。

四月、改築中のはまゆう保育園竣功。

六月四日、神津島港にし防波堤ケーソン沈設。

八月二五日、都営第三種空港が運輸省の第五次空港整備計画に事業採択。

十一月一日、大島三原山大噴火、全島民本土へ避難する。

十二月二五日、神津島空港の六二年度予算要求が大蔵省の査定で切られ、陳情の結果予算復活する。

一九八七 昭和六二年

四月、議員提案により議会議員定数を一〇名とする議決による選挙。

一九八八 昭和六三年

鯖崎温泉掘削二〇〇メートルで八〇度、一日の湯量一〇〇〇トン、温泉事業開始。

七月、第二回臨時議会で、鯖崎温泉を(神津島温泉)と命名。

一〇月六日、集中豪雨、一日雨量三四四ミリ、島北部被害甚大、阿波命神社本殿壊滅、その他林道、村道とりが沢線全壊。

一〇月八日、降り続く雨の為急傾斜地近辺の住民に避難命令。

十二月、小学校体育館改築工事完了。

一月七日、昭和天皇崩御される。

一九八九 昭和六四年  
平成元年

昭和から平成に改元。

四月、佐藤村長三選

五月第二〇回ジュリア祭。

七月、建設省の(コースタル・コミュニテイゾーン)整備計画に沢尻、長浜海岸が認定され、海岸整備計画着工。



一九九〇 平成二年

- 七月、豪雨災害を受けた阿波命神社復興地鎮祭。  
一〇月、字面房地区で温泉掘削開始。  
一二月、建設中の三浦漁港特目岸壁に、大型客船かめりあ丸接岸。  
観音浦沖沈船の遺跡潜水調査、硯、播鉢、石臼錨等引き揚げる。  
四月、温泉保養センター起工式。  
五月、豪雨による被害を受けた阿波命神社上棟式。  
六月、字面房地区の温泉掘削工事完了  
九月、台風一九号襲来、村道一四号線、温泉施設に被害を受ける。  
一月二日、平成天皇即位式。  
一月、神津島村消防団に女性消防隊編成。  
村道第一四号線鯖崎トンネル工事着工する。  
都立神津高校体育館竣功、併せて創立二〇周年記念式典挙行。  
九月、建設中のとりが沢線の赤碕トンネル貫通。  
一月、建設中の三浦漁港の特定目的岸壁完成、

一九九一 平成三年

一九九二 平成四年

- 接岸式を行う。  
村道菊若線新設工事着工。  
三月、鯖崎トンネル開通式。  
三月、鯖崎トンネル掘削、日量二〇〇トン確保。  
七月二日、多年の念願の都営神津島空港完成、鈴木都知事、川島都議、都関係者及び受入空港の調布市長等の来賓を招き、盛大に開港式典開催。  
七月、生き甲斐対策として字宮原にゲートボール場完成。  
七月、中学校体育館改築工事着工。  
八月、既存のゴミ焼却場の老朽化により改築工事。  
八月、佐藤村長退職。  
九月一七日、天上山麓よりの失火により、黒島約二四ヘクタール焼く。  
九月二八日、山下繁村長当選。  
一〇一七日、震度四の地震発生。  
一〇月二六日、村議会全員協議会で懸案中の特別養護老人ホーム建設予定地等視察、協議の結果

一九九三

平成五年

- 字沢尻の私有地（一部村有地）を建設地と決定。
- 一月一日、休日法改正、週休二日制、役場も土曜日閉庁。
- 二月四日、村道とりが沢線赤崎トンネル竣功。
- 二月五日、東海汽船新造船、さるびあ丸来航。
- 二月七日、臨時村議会において特別養護老人ホーム建設特別委員会設置。
- 二月一二日、特別養護老人ホーム建設促進及び設立準備委員会発足。
- 五月、伊豆七島の神々が集り、水配りの会議を開いた神話により、前浜海岸に水配リモニュメント設置。
- 六月九日、皇太子徳仁親王殿下ご成婚。
- 六月二六日、建設中の中学校体育館落成。
- 七月八日、増改築中の新島警察署神津島南駐在所落成する。
- 八月、昭和六三年の豪雨により被害を受けた阿波命神社の、御庁屋、神橋の復元工事再開。

一九九四

平成六年

- 一〇月、噴火を想定した防災訓練、東京都、消防庁、警視庁、自衛隊との合同で実施。
- 一〇月、高齢者緊急通報システムを設置、高齢者世帯に配備。
- 十一月二〇日、神津島診療所開設百周年記念式。
- 一月二八日、神津島温泉の第二号温泉井完成。
- 三月一日、地震頻発、最大震度四、道路等に被害発生。
- 三月二四日、長野県佐久市の神津姓の人々との交流が続いていたが、友好都市の盟約を佐久市で締結する。
- 三月、島のシンボルを募集、（島の花にこうずえびね）（島の鳥にいそひよどり）（島の木にさかき）（島の魚にかじきまぐろ）決定する。
- 四月八日、神津島村と佐久市との友好都市盟約記念祝賀会を神津島で行う。
- 五月第二五回、ジュリア祭執行。
- 七月五日、建設中のごみ焼却場完成する。

七月二一日、国際環境に適応出来る人間育成の目的で、中学二年生対象にカナダへホームステイ出發する。(二〇日間の研修)

七月、腎不全で透析治療を受ける患者の為、同月二五日透析医療開始。

八月一五日、終戦四九周年記念戦没者、戦災死者の合同慰霊祭執行する。

九月一日、特別養護老人ホームの新築工事着工、同施設の名称は公募の結果、河合よし子の「やすらぎの里」に決定

一〇月、東京消防学校主催の消防操法大海で、神津島消防団が小型ポンプの部で準優勝。

一〇月、敬老会に於いて本年百歳となった土谷伊喜に、金百万円贈呈。

一月六日、震度四の地震発生。余震が続くが被害無し。

一月一七日、淡路島を震源とする、淡路、神戸地震発生(震度七)死者五〇〇〇名以上、家屋被害

一九九五 平成七年

一五万戸以上と云う。

四月、鈴木都知事退職、青島幸男当選。

五月三一日、三浦漁港防波堤ケーソン沈没、縦三〇メートル、横三九、六メートル、深さ一三、六メートルで離島で初の巨大ケーソンと云う。

九月一七日、台風一二号接近島内各所で土砂崩れ一部家屋に被害。

一〇月五日、津浪を想定した避難訓練、保育園児、小、中、高校生、一般住民参加で実施。

一〇月六日、午後九時過ぎ震度五の地震発生、其の後も余震続き、各所で道路の土砂崩れ、与種山付近の住民に避難勧告、家屋人的被害無し。

一一月二七日、阿波命神社の御庁屋、神橋、御水屋完成し竣功祭。

一二月、字名組にドンタク。ハウス建設。

四月二六日、平成六年着工の特別養護老人ホーム完成、戸福祉局長と議会議員多数の来賓を招き、落成記念式典及び開所式を行う。

一九九六 平成八年

一九九七

平成九年

- 特別養護老人ホーム(定員三〇名一二室)
- ショートステイ(定員一〇名三室)
- 生活福祉センター(定員一名一〇室)
- 七月一五日、やすらぎの里通所訓練所開設、
- 九月二二日、台風一二号接近、総雨量二九四ミリ  
土砂崩壊で道路被害、ごみ、し尿の処理に支障。
- 九月二二日、豪雨の中山下村長再選。
- 一〇月農業集落排水施設設計入札。
- 十一月二一日、青島都知事行政視察来島。
- 四月一九日、老人ホームやすらぎの里開設一周年  
記念行事を行う。
- 六月二五日、三浦漁港防波堤の巨大ケーソン沈没。
- 七月五日、中学校の創立五〇周年記念行事執行。
- 七月一六日、村道とりが沢線、大黒根トンネル開  
通、開通式挙行。